

第61回（平成23年度）国際会議出席費補助金受領者出席報告

9th International Congress on Extremophiles（第9回極限環境微生物国際会議）に参加して

福井大学大学院工学研究科 里村武範

スペインセビリアの Hotel NH Central Convencionesにおいて2012年9月10日から9月13日まで開催された9th International Congress on Extremophiles（第9回極限環境微生物国際会議）に参加した。本会議は高温、高圧、高塩濃度など大部分の生命が生育できないような極限的な環境でも生育可能な生物を対象に、その環境適応メカニズムの解明や産業応用について研究する世界各国の研究者が一堂に集まり最新の研究成果を報告する学会である。本国際会議では招待講演26件、口頭発表30件、ポスター発表195件と発表件数が非常に多い大規模な学会であった。オープニングレクチャーはカリフォルニア大学のJames A. Lake教授による「Using genomes to track the evolution of life on Earth」という表題で生命進化についての興味深い講演から始まった。その後も地球外生命体の可能性を探る宇宙生物学から極限環境微生物の遺伝子操作系の開発、メタゲノム解析、難培養微生物の探索など多岐にわたる研究分野の招待講演が行われ、最先端の研究成果を聞くことができた。また、本国際会議のクロージングレクチャーではジョージア大学Michael W. W. Adams教授による「Basic and applied studies of life near 100°C」という表題で極限環境微生物の産業応用への挑戦に関する講演で締めくくられた。このように本国際会議では他の学会には見られない幅広い研究分野が議論されていた。その中でも、Max-planck研究所のSonja V. Albers博士の*Sulfolobus*

属を用いた遺伝子操作系の開発については以前から筆者が興味を持っていたため直接講演を聞けたことは今後の筆者自身の研究にとって参考になった。

また、口頭発表では、データ未公表の最新の研究成果などが報告されており今後の研究を展開するうえで非常に参考になった。筆者はポスター発表での報告であったが、最近論文に報告した極限環境微生物由来のアミノ酸脱水素酵素の構造と機能の解析についての報告を行った。ポスター発表ということもあり、気軽に研究内容について討論することができ、今後の研究展開において有用な情報やアドバイスを受け有意義な発表となった。

学会の昼食会や懇親会では、各国の多くの研究者や学生から、研究内容に関する話題だけではなく地域による共同研究体制の違いや各国の文化についてなど様々な意見交換ができる大いに刺激を受け、今後の研究に対するモチベー

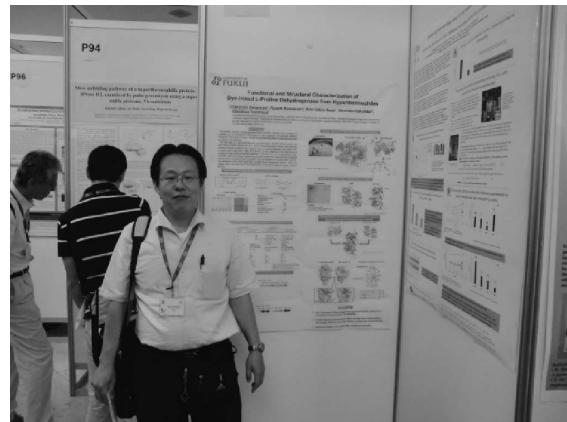


写真2 ポスターセッション



写真1 Congress Dinner の様子



写真3 学会会場の様子

ションを高めることができた。本国際会議に参加することによって得た知識や経験を糧に、今後の筆者自身の研究発展につなげるべく努力していきたい。

15th International Biotechnology Symposium (IBS2012) に参加して

岡山県農林水産総合センター生物科学研究所 畑中唯史

韓国・大邱（テグ、 Daeg）市の大邱展示コンベンションセンター（EXCO）にて、2012年9月16日から21日まで開催された、15th International Biotechnology Symposium (IBS2012) に参加した。本学会は、2年に一度開催されるバイオテクノロジーの国際会議であり、参加者の国籍は、50カ国を超える、口頭発表約600題、ポスター発表1000超の、盛会であった。開催2日目、韓国は台風SANBAが直撃し、どうなる事かと心配したが、あっという間に中国へ遠のき、初日、二日目を除けば、韓国は良い御天気に恵まれた。

テグ市は、ソウル、プサンについて、韓国第3の都市であり、地下鉄も走る地方都市である。筆者は、岡山から仁川に飛行機で、韓国入りし、韓国ご自慢の新幹線KTXを利用して、約2時間でソウルから東テグ駅に到着した。残念ながら、会場までは、地下鉄が開通しておらず、タクシーを用いての参加となった。しかしながら、韓国は鉄道・タクシーなど交通機関の料金は、格安で渡航者にとっては、利便性が高いと感じた。ただし、宿泊費用は、日本と同程度のようである。

筆者は、研究所の同僚と、2題ポスター発表を行った。筆者は、「Production of dipeptidyl peptidase IV inhibitory peptides from defatted rice bran」で、同僚との連名で「Enzymatic production of ferulic acid from defatted rice bran by combination of bacterial enzyme」について、発表した。いずれも、米糠を研究材料に用いた実験であり、筆者の発表は、糖尿病予防効果を狙った米糠ペプチドによるジペプチジルペプチダーゼIVの阻害効果についてであり、同僚との連名での発表は、米糠など植物に含まれる抗酸化物質であるフェルラ酸の酵素による分離法についての発表であった。日本人の研究者も、多く参加しており、会

最後になりましたが、本国際会議参加にあたり渡航費を援助いただきました財団法人農芸化学研究奨励会には厚く御礼申し上げます。

ry peptides from defatted rice bran」で、同僚との連名で「Enzymatic production of ferulic acid from defatted rice bran by combination of bacterial enzyme」について、発表した。いずれも、米糠を研究材料に用いた実験であり、筆者の発表は、糖尿病予防効果を狙った米糠ペプチドによるジペプチジルペプチダーゼIVの阻害効果についてであり、同僚との連名での発表は、米糠など植物に含まれる抗酸化物質であるフェルラ酸の酵素による分離法についての発表であった。日本人の研究者も、多く参加しており、会



写真2 Opening Ceremony にて。



写真1 Welcome Reception にて。

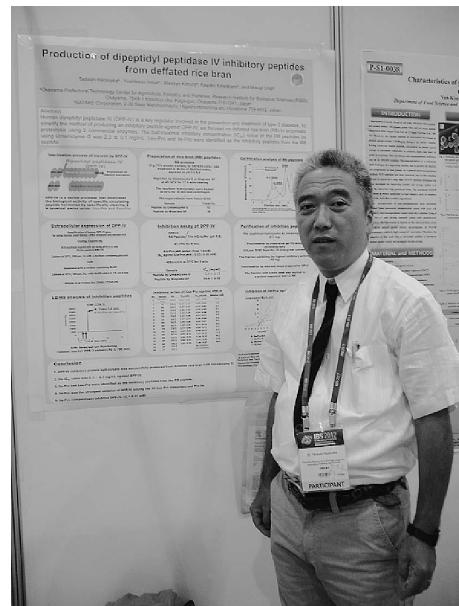


写真3 Poster Session にて。